

訪日観光客に伝わる、魅力的な英語解説文を目指して

魅力的な英語解説文を目指して

有限会社ファンキー・コープ シニアアカウントマネージャー 佐久間成美
株式会社乃村工藝社 第三事業本部 地域創生事業部 石川厚志

一. はじめに

環境省では、二〇二〇年の訪日外国人旅行者を四、〇〇〇万人にすることを目標に取りまとめられた「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき、観光ビジョンの一〇の施策のひとつとして、日本の国立公園のブランド化を目指す「国立公園満喫プロジェクト」を推進している。阿寒摩周国立公園、十和田八幡平国立公園、日光国立公園、伊勢志摩国立公園、大山隠岐国立公園、阿蘇くじゅう国立公園、霧島錦江湾国立公園、慶良間諸島国立公園の八カ所の国立公園で「国立公園ステップアッププログラム二〇二〇」を策定してインバウンド対応の取り組みを計画的・集中的に実施し、日本の国立

公園を世界の旅行者が長期滞在したいと憧れる旅行目的地にしようというものである。

二. 現状の課題

現在、訪日旅行者の受入環境整備の一環として、直轄デジタルセンターの案内板をはじめとする多言語解説文の制作が進められている。ところで、海外の博物館や美術館、観光施設を訪れた際、日本語のパンフレットを手にしたことがあるだろうか？ 誤字や誤訳などの「おかしい日本語」はもろろんだが、それらの日本語表現の「質」に満足できる日本人は多くはない。英語のように明示的で直接的な表現が好まれる言語からの翻訳原稿は、日本語としては読みにくく、違和感を感じることが少なくない。

それと同様のことが日本の観光施設でも起こっており、訪日観光客は多言語解説文の不自然な翻訳に違和感を感じ、誤訳に苦笑いする。説明不足によって観光資源の魅力が十分に理解することができなければ、訪日満足度も低下してしまうだろう。

三. 外国人に日本の魅力を伝える新たな取り組み

有限会社ファンキー・コープでは、訪日観光客向け多言語サイトのコンテンツ制作を通じて、ユーザーの視点を重視した独自の制作メソッドを構築してきた。これまで多くの英語観光サイトでは、日本人の視点で書かれた日本語コンテンツをそのまま直訳するという制作手法が取られてきたが、ファンキー・コープでは、日本の観光に精通した英語ネイティブのスタッフが旅行者の視点で地域の魅力を掘り起こし、英語で原稿を書き始めることを基本としている。ユーザーは日本に関する知識をもたないものと仮定し、文化、習慣、感覚、宗教等の違いを考慮した上で、タビマエ、タビナカの情報收拾においてユーザー視点で有益な情報

を、英語ネイティブライターが英語で書く——株式会社乃村工藝社はこの制作プロセスをデジタルセンターの展示解説文制作に応用した取り組みを行っている。

四. 阿寒摩周国立公園 川湯エコミュージアムセンターでの取り組み

川湯エコミュージアムセンターでのプロジェクト開始当初、日本語解説文とそれを直訳した英語解説文が既に存在していたが、空間レイアウトや展示デザインは考慮されてはいなかった。日本語から直訳しただけの英語解説文が、ネイティブにとつていかに不自然であるかをご理解いただき、その上で、現地で長年活動を続けてこられた御担当者とともに質の高い多言語解説文の制作を目指した。川湯エコミュージアムセンターの既存展示の特徴は、川湯温泉街と硫黄山をつなぐつつじヶ原自然探勝路において、火山ガスや酸性土壌の影響でわずか二・五kmの間で、「針葉樹林帯」「広葉樹林帯」「イソツツジ帯」「ハイマツ帯」などの植生の変化を体感させるように誘導していることにある。また摩周湖や屈斜路湖などに関しても

専門性の高い解説を行いながらも、趣向を凝らした展示表現によって地域の自然を楽しく学ぶことができるように工夫している。このような魅力的な展示を通じて、地域の歴史や自然とともにある文化を英語ネイティブに理解してもらうことを目標に、以下の制作プロセスを採用することになった。

(1) 日本語原稿の検証・精査

日英バイリンガルの日本人ディレクターが元原稿となる日本語原稿において、誤訳につながる分かってにくい表現がないか、また、どのような展示デザインで展開される解説文かを確認する。

(2) 英語への翻訳

英語ネイティブ翻訳家が、日本語原稿内で説明される事実関係を一切漏らさないよう英語に翻訳する。

(3) 翻訳文の編集（クリエイティブライティング）

英語ネイティブライターが、日本語から英語に翻訳される際に生まれる不自然さを修正し、英語表現として自然な文章へと編集する。語彙選定や文章構成、重複表現を見直し、日本語特有の抽象的な表現や受動態を修正。必要に応じて

日本文化や専門知識のないユーザーに対する補足説明を追加する。

(4) 校正・校閲

英語ネイティブエディターが校正・校閲を行う。ライティングスタイルを揃え、固有名詞の表記統一を徹底し、英語原稿としての表現の質をさらに向上させる。

(5) アドバイザーレビュー

多言語解説のアドバイザーが、訪日旅行者の観点から分かりやすく魅力的な文章であるかどうか監修を行う。そのフィードバックから追記・修正を行い、多言語解説コンテンツとしての質を向上させる。

翻訳コンテンツの制作に関わったことのある人であれば、この制作プロセスが一般的な翻訳とはまった



阿寒湖畔エコミュージアムセンターの解説板では繁体字、簡体字、韓国語の多言語翻訳を担当



執筆を担当した川湯エコミュージアムセンターの展示を見学するエディターのジェレミー・クールズ氏

く異なるものであり、英語ネイティブであるターゲットに最適化されたものであることをご理解いただけるだろう。さらに中国語（繁体字・簡体字）や韓国語などへ多言語化する際は、上記プロセスによって完成した英語原稿をベースに翻訳を行う。

五. ネイティブエディターによる現地取材

また、茨城県自然博物館の展示解説パネルでも、同様のプロセスで英語解説文の制作を行った。この時は、元となる日本語原稿の検証・精査を事前に実施した上で、日英バイリンガルの日本人ディレクターと、英語ネイティブエディターが現地を訪れ、実際の展示デザインを確認しながら学芸員に訴求ポイントの聞き取りを行った。展示に対して日本人が興味をもつポイントと、外国人が興味をもつポイントは異なることがあり、専門知識をもつ学芸員と英語ネイティブエディターが直接、議論を重ねることで、質の高い英語解説文を完成させることができたと自負している。

観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」では、魅力

的で分かりやすい解説文の作成を支援するため、英語ネイティブ人材を地域へ派遣している。原稿制作に関わるネイティブ人材が実際に現地を訪れることは品質向上に大きな影響を与えることから、今後はこのような制作プロセスが一般的になると考えられる。

佐久間 成美 ●さくま なるみ
有限会社ファンキー・コープ シニア
アカウントマネージャー
東京を拠点とするデジタルエージェンシー。日本政府観光局公式グローバルサイトをはじめ、和歌山県公式観光サイト「Visit Wakayama」、奈良県公式観光サイト「Visit Nara」など、訪日外国人向け多言語サイトの制作を手掛ける。英語ネイティブエディターが多数在籍し、近年は、訪日インバウンドコンテンツ制作のノウハウを活かした人材育成や啓発に力を入れている。
<http://www.funkycorp.com/>

石川 厚志 ●いしかわ あつし
株式会社乃村工藝社 第三事業本部地域創生事業部
全国のビクターセンターの企画・設計・施工を担当する。
著作／国立民族学博物館調査報告「上平村における歴史的環境の保全と地域づくり」